

# 横浜市立高田小学校

## 平成28年度 学力向上アクションプラン

### 1 中期学校経営方針

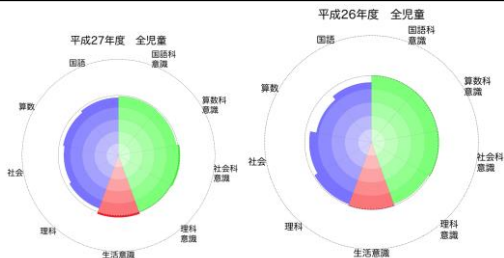
#### (1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の定着を図り、学ぶことの喜びを実感させるために、教職員の授業力を高め各教科等の学習指導の充実に努めます。</li> <li>○全職員の共通理解のもと、配慮を要する児童の豊かな成長のために全職員で対応します。</li> <li>○自他の生命を尊重する心をもつ児童の育成を図るため、全教職員の共通理解のもと児童指導の充実に努めます。また、豊かな社会性が育成されるよう家庭・地域と協働します。</li> </ul>

#### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
<b>確かな学力 (学習指導)</b>	校内の授業研究研修の充実に努めることにより、教員の授業力を高め、児童の興味関心意欲を重んじ、思考力、判断力、表現力を高める授業の実践を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①講師を招いて、教科研究授業研修会（体育）を実施し、授業力の向上を図る。</li> <li>②算数によるTTの実施や教員の専門性を活かした授業の実施。</li> <li>③学習状況調査の分析を通じて、学習課題の把握に努めるとともに授業改善に活かす。</li> <li>④ICT器具の活用を進め、生徒の興味関心を高め、学力の向上を目指す。</li> </ul>
<b>担当</b>	学習指導部	

### 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



#### (1) 学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市の平均的な学力を下回っている。学習意識、生活意識がやや低い状況がある。概して教科等の学習が好きではない、と答えている子どもが2～3割程度存在する。好きではない理由とし分らない、自分の考えを表現できない、体験的な学習が少ないなどという回答が若干見受けられ、授業改善が求められている。

#### (2) 教科学習の状況

- 国語科：自分の考えを文章に書き表したり話したりする力は身に付いているものの、正確に読むことは課題
- 算数：各学年でばらつきが見られるものの技能、知識・理解、数学的思考のいずれについても課題
- 社会科：知識・理解にも課題はあるが、思考・表現や技能の観点において特に課題
- 理科：社会と同じく知識・理解にも課題はあるが、思考・表現や技能の観点において特に課題

#### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学校全体としては、学習の状況などやや改善している。2、3年の学習意識、生活意識がやや高い。学習意識調査からみると、算数、理科の学習が好き、授業が分かりやすいと感じている子どもの割合が低い。原因として、説明するなど表現したり、工夫してノートを書いたりするなど主体的に授業に取り組めていないこと、学習したことを日常生活に活用する場面を十分に位置付けていないことなどが考えられる。家庭での学習時間は横浜市の平均並みではあるが、まだまだ習慣化されていない児童も多く、学力の定着の不十分さにつながっていると思われる。学習に対する興味関心を高め、主体的な学習になることを授業改善の視点としていきたい。

### 3 平成28年度 学年・教科等としての具体的取組

#### 1 学年

- 自分の気持ちや想いを言葉で表したり、分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたりすることができるような学習を計画的に行う。
- 国語・算数科等で、お互いの考えを聞き合う活動を大切に、できる限り対話をする場面を設ける。

#### 2 学年

- 自分の思いを相手に伝えようとする意欲を持たせるとともに、尋ねたり、応答したり、グループで話し合い感想をまとめたりする学習を計画的に行う。
- 教科の学習で、互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合えるようにする。

#### 3 学年

- 相手を意識し、伝わるように話したり、聞いたことをもとに考えを深めたりする場面を作り、学び合いの意識を高める。
- 話の中心や順序に気を付けて読んだり書いたりする力を身に付ける指導をする。
- 図形の特徴や数量関係について、実感を伴った確実な理解ができる学習活動をする。
- 社会・理科など初めての教科に関心をもち、児童が進んで調べていく環境を作る。

#### 4 学年

- 授業の中で話型を提示し、自分の考えを書く表現に加えて言葉で説明することで、語彙を増やし、考える力を付けるようにする。
- 社会科や理科等で自分の言葉でまとめる活動を通して、順序づけたり、関連付けたりして考える学習を計画的に行う。
- 適用問題や練習問題に取り組み、基礎学力の定着、活用する力を付けるようにする。

#### 5 学年

- 国語・算数科等で、新しく身に付けた知識を生かす活動を多く位置づける。多面的に考える力をつけ、粘り強く問題と向き合う姿を目指す。
- 相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら話し合う。
- 社会科で、資料を活用して必要な情報を集め読み取る学習を計画的に行う。『横浜の時間』等で説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。

#### 6 学年

- 各教科では、学習の内容を交流し、曖昧な部分を明確にしたり、違った視点を打ち消し合い、よりよい考えを見つけたりするための活動を計画的に行う。
- 学習で身に付けた知識や経験を一般化しやすいよう、学習に必然性を持たせ、日常生活に生かすことができるようにする。
- どの教科においても、資料や情報を関連付けたり、分類・整理したりしながら推論する学習を位置付けるとともに、その振り返りを効果的に行う。

#### 個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行うようにする。
- 子どもに応じたわかりやすい情報発信をするなど言語環境の整備を行うようにする。